



平成 21 年 5 月 29 日

各 位

株式会社三菱ケミカルホールディングス  
本店所在地 東京都港区芝四丁目 14 番 1 号  
代表者名 取締役社長 小林 喜光  
(コード番号 4188 東・大第 1 部)  
問合せ先 広報・IR 室長 高阪 肇  
電話 03-6414-4870

### 石油化学事業の再編・再構築について

弊社連結子会社である三菱化学株式会社(社長:小林 喜光、本社:東京都港区)は、競争力強化に向け石油化学事業の再編・再構築を進めておりますが、今般別添の通りカプロラクタム事業及びスチレンモノマー事業から撤退することを決定いたしましたのでご連絡いたします。

また、本日同社とRoyal DSM N.V.と共同でリリースしておりますが、Royal DSM N.V.が欧州を中心に展開しているポリカーボネート事業を譲り受け、同事業を拡充するとともに、ナイロン事業をRoyal DSM N.V.社に譲渡するべく検討を開始いたしましたので、併せてご連絡いたします。詳細につきましては、別添参考資料 1 の当事会社の発表資料をご参照下さい。

なお、カプロラクタム事業及びスチレンモノマー事業撤退に伴う、当社の今期業績に対する影響は軽微です。

以上

2009年5月29日

石油化学事業の再編・再構築について

三菱化学株式会社

株式会社三菱ケミカルホールディングスグループの主要事業会社である三菱化学株式会社（所在地：東京都港区、社長：小林 喜光、以下「三菱化学」）は、競争力強化に向け石油化学事業の再編・再構築を進めておりますが、今般カプロラクタム事業及びスチレンモノマー事業から撤退することを決定いたしましたのでご連絡いたします。詳細は別紙の通りです。

石油化学製品は、国内需要が縮小する一方、国内外において今後中東を中心とする安価な原料を基に製造された製品との競争が激化することが見込まれ、事業を取り巻く環境は厳しさを増してまいります。

こうした事業環境を背景として、エンジニアリングプラスチックや繊維等で使用されるナイロンの原料となるカプロラクタムをはじめとするカプロラクタム事業並びにポリスチレン樹脂、ABS樹脂などのスチレン系合成樹脂、発泡スチロール、合成ゴムの原料となるスチレンモノマー事業について、これまで様々な合理化対策を実施してまいりましたが、収益の回復が見込まれないと判断したため、この度両事業から撤退することとしたものです。

なお、本日 Royal DSM N.V. と共同でリリースいたしました通り、Royal DSM N.V. が欧州を中心に展開しているポリカーボネート事業を譲り受け、同事業を拡充するとともに、ナイロン事業を Royal DSM N.V. に譲渡するべく検討を開始いたしました。今後は、事業撤退を円滑に進める一方、集中事業を中心とした石油化学事業の事業基盤強化に取り組んでまいります。

以上

【本件に関する問合せ先】

三菱化学株式会社 広報・IR室

TEL：03-6414-3730



## 高機能樹脂事業における事業交換の検討開始について

三菱化学株式会社  
Royal DSM N.V.

三菱化学株式会社（本社：東京都港区、社長：小林 喜光、以下「三菱化学」）と Royal DSM N.V.（本社：オランダ Heerlen 市、Chairman：Feike Sijbesma、以下「DSM」）は、DSM エンジニアリングプラスチック株式会社（本社：オランダ Sittard 市、President：Roelof Westerbeek、出資比率：DSM 100%、以下「DSM エンプラ」）が欧州を中心に展開しているポリカーボネート事業と三菱化学及び三菱エンジニアリングプラスチック株式会社（本社：東京都中央区、社長：喜嶋 安彦、出資比率：三菱ガス化学株式会社50%/三菱化学50%、以下「三菱エンプラ」）が日本及びアジアを中心に展開しているナイロン事業について、更なる競争力の強化を目的とした事業の交換の検討に入るにつき基本合意書を締結し、具体的検討に入りましたのでご連絡いたします。

DSM は、ナイロン事業を主力事業の1つと位置づけており、DSM エンプラが三菱化学及び三菱エンプラのナイロン事業を譲り受けることで、欧米だけでなく、アジア、とりわけ日本及び中国市場において、自動車、電気・電子、包装資材分野でのサービスと新規開発能力を向上させることによって、エンジニアリング樹脂用ナイロンにおける世界の2大メーカーとしての地位を確立することが期待されます。また、DSM は、昨年、既に中国で6ナイロンの生産を開始しております。

一方、三菱化学は、昨今の厳しい経済環境下、石油化学事業において事業構造改革と事業の選択と集中に積極的に取り組んでおりますが、その中で、ポリカーボネート事業は、自動車、情報電子等幅広い分野で使用され、将来的にも成長が期待されることから、集中事業の一つとして位置づけて、グローバル展開しております。DSM から事業を譲り受けることにより、DSM の付加価値の高いコンパウンド品を中心としたポリカーボネート事業を三菱化学及び三菱エンプラとして欧州及びアジアで展開することができ、更なる拡大を期待することができます。なお、この度譲渡することを検討している両社の事業規模は、それぞれ08年度で約120億円（9000万ユーロ）です。

また、本事業交換を実施した場合、製造においては、三菱化学及び三菱エンプラが、ディーエスエムジャパンエンジニアリングプラスチック株式会社（本社：東京都港区、社長：Leon Halders、出資比率：DSM エンプラ100%）よりナイロン樹脂及びそのコンパウンド製品の日本における生産を受託し、DSM エンプラが三菱化学及び三菱エンプラよりポリカーボネート樹脂コンパウンド品のベルギーにおける生産を受託するとともに、販売・技術サービスにおいても、継続的な相互協力関係を構築する予定であります。

今後は、年内に事業の交換を実行することを目標に、両社で具体的な検討を進めてまいります。

以上

&lt;参考&gt;

【DSM社概要】 売上高 93億ユーロ（約1.2兆円）  
全社従業員数 23,500人

【問合せ先】

三菱化学株式会社 広報・IR室  
連絡先：03-6414-3730